

(書式 2)

学会参加報告書

提出日 2019年 6月 4日

学籍番号	18PDA06	所属	健康科学・スポーツ医科学系
氏名	ハシモト ユウト 橋本 佑斗		
学会等名 (正式名称)	66 th American College of Sports Medicine Annual Meeting		
開催日程	2019年 5月 28日 ~2019年 6月 1日		
開催場所 (国・都市名)	オーランド、フロリダ、米国		
発表演題名	Relationship between arterial stiffness and cardiac function in athletes		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p><学会の全体の印象> 国際学会は初めての参加であったが、全体を通して感じた点は、シンポジウムや研究発表を聞いている全員が納得いくまでディスカッションをする点とその行為にためらいがない点である。日本国内の学会では、あまり質問が出ないことや、時間の都合上あっさりとして終了することもあるが、今回の学会では質問者がマイクの前行列をなし、時には質疑中にフロアから別意見が出るほど活発であった。また、1つのテーマについて複数人が発表を行う Thematic Poster では、最後に座長、発表者、フロアの全員で総合討論を行うなど初めての体験もあった。学会を通して、学会発表のあるべき姿を感じ興奮を覚えると同時に、ディスカッションについていくことができなかつた自身の力不足を痛感した。</p> <p><自分の研究と関連した発表とその内容> 申請者の研究は、アスリートは大動脈スティフネスの低さが高い心機能と関連するという内容である。申請者の研究と関連した発表では、大動脈スティフネスと最高酸素摂取量の関連についての研究が気になった。健康な成人 203名 (男性 97名、女性 106名) の大動脈スティフネスと最高酸素摂取量の相関関係について報告したものであり、大動脈スティフネスの低さは高い酸素摂取量と関連していた。最高酸素摂取量は心機能と関連することで知られる。残念ながら当該研究の発表者と話すことはできなかったが、大動脈スティフネスはアスリートの有酸素性運動パフォーマンスの指標になる可能性が考えられた。</p> <p><自身の発表への質問・コメント> アスリートとコントロールで結果が異なった理由や生理学的意義についての質問があった。また、相関関係同士の比較について統計手法のアドバイスをいただくことができた。</p>		

- ※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。
提出期限は学会終了後2週間以内とする。
本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。